

2021年5月14日

各位

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関連施設に 再生可能エネルギー由来の電気を供給します！

当社（社長：大田 勝幸）は、「東京2020ゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）」として、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）の関連施設に再生可能エネルギー由来の電気（以下、再エネ電気）を供給しますので、お知らせいたします。

当社は東京2020大会の関連施設（53施設※）に電気を供給しますが、大会期間中はオリンピックスタジアム（ウォームアップエリア）、有明体操競技場（ブロードキャストエリア）など、49施設に供給する電気は全て再エネ電気（供給予定電力量：約24百万kWh）といたします。供給する再エネ電気は、バイオマス発電や太陽光発電で発電されたものであり、CO₂排出係数ゼロの環境配慮型エネルギーです。これらの再エネ電気の供給を通じて、当社は、持続可能性に配慮した東京2020大会の運営をサポートし、東京2020大会の成功に貢献してまいります。

また、当社は再エネ電気の供給に加えて、聖火台、東京2020オリンピック聖火リレー水素トーチ（聖火リレーの一部で使用）および大会用車両として使用されるFCV（燃料電池自動車）に、東京2020オフィシャル水素である「ENEOS水素」を供給いたします。使用時にCO₂が発生しない水素の供給も、持続可能性に配慮した大会運営に資するものです。

当社は東京2020大会において再エネ電気や水素を供給するとともに、今後も再生可能エネルギー事業の拡大やCO₂フリー水素のサプライチェーン構築など、国連「SDGs（持続可能な開発目標）」である、「7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに」「13. 気候変動に具体的な対策を」の達成につながる取り組みを通じて、脱炭素・循環型社会の形成に貢献してまいります。

※供給地点特定番号が付番された電気の使用場所の数

<再エネ電気供給内容（予定）>

供給期間	2021年7月～2021年9月（大会期間中）
供給先	オリンピックスタジアム（ウォームアップエリア）、有明体操競技場（ブロードキャストエリア）など計49施設
供給予定電力量	約24百万kWh

<国連「SDGs（持続可能な開発目標）」との関わり>



とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

<東京 2020 大会における当社のエネルギー供給先（2021年5月14日時点）>

電気	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピックスタジアム、有明体操競技場など53施設 （供給予定電力量は合計約78百万kWh） ※再エネ電気は大会期間中、49施設に供給 （供給予定電力量は約24百万kWh）
水素	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会関係FCV（燃料電池自動車）約500台 ・ 聖火台 ・ 水素トーチ（聖火リレーの一部で使用） <p>※東京 2020 大会への水素供給については、以下のリリースも併せて参照願います。 https://www.eneos.co.jp/newsrelease/20200124_01_1090046.pdf</p>
石油	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会関係車両（乗用車約2,200台・バス約1,500台） ・ 競技会場および大会関連施設45箇所に設置される発電機 ・ 仮設給油施設（築地・若洲）
都市ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有明体操競技場、横浜市庁舎、築地輸送デポ
LPガス※	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聖火リレートーチ ・ オリンピックスタジアムなど12施設 <p>※ENEOSグローブ株式会社を通じて供給</p>

<東京 2020 組織委員会のニュース>

<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/news/news-20210514-03-ja>

以 上